



2008.7

No. 174

MONTHLY

# れんごう

北海道

<http://www.rengo-hokkaido.gr.jp>

発行

日本労働組合総連合会 北海道連合会

発行責任者

村田 仁

〒060-8616 札幌市中央区北4条西12丁目 ほくろビル6F TEL (011) 210-0050 center@rengo-hokkaido.gr.jp

## 平和行動in沖縄に参加

北海道から14名、決意新たに

事実上沖縄戦が集結したとされる6月23日に行われる「沖縄慰霊の日」を中心に連合「平和行動in沖縄」が開催され、北海道から14名が参加した。

一行は21日から沖縄に入り、22日に独自学習を開催した。午前中は、まず嘉手納基地を視察した後、町の54%程の米軍基地を抱える北谷町(砂辺馬場公園)で「基地の現状と被害」と題して北谷町役場秘書係長の宮里泰明さんから「基地被害の概況」について説明がなされ、そして砂辺区自治会長の松田正二さんからは地元住民の生の声が報告され、見える基地を視察した。

午後からは、那覇市において、琉球新報社政経部記者の滝本匠さんから地位協定と米軍再編について新聞記者の立場から解説があり、続いて「ひめゆり学徒隊」であった宮城喜久子さんからは宮城さん自身が体験した沖縄戦の様子を学んだ。

6月23日には、連合主催の「2008平和オキナワ集会」が開催された。オープニングアトラクション(エイサー、地元中学生による平和への証言、寸劇「お笑い米軍基地」)に続き、平和式典が開催された。主催者として連合本部



高木剛会長が、「沖縄では、米軍機の騒音被害が日常化しており、さらに米兵による事件・事故が多発している。連合は引き続き在日米軍基地の整理・縮小

と日米地位協定の見直しに取り組んでいく」と挨拶した。その後、地元沖縄連合会長の挨拶があった後、来賓挨拶、平和メッセージ、平和アピールが行われた。平和メッセージでは



挨拶にたった北海道団の三浦正道団長(連合北海道副会長)が「北海道も米軍移転訓練、米艦船の民間港入港などの問題を抱えており、連合北海道としても在日米軍基地の整理・縮小と日米地位協定の見直しに全力で取り組んでいく」との強い決意が述べられた。

6月24日は「ピース・フィールドワーク(沖縄戦・南部戦跡に学ぶ)」が行われ、バスに分乗し、「嘉数高台」糸数の壕「ひめゆりの塔」平和資料館などを見学した。

最後に沖縄県庁前広場で米軍基地の整理・縮小と日米地位協定改正を求める集会を行い、牧志公園までデモ行進を行い終了した。

参加した14名は今回の経験を元に、地元及び産別の中でより一層の平和行動に取り組む決意を新たに帰道した。

この記事のアドレス [http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/monthly\\_new\\_2008\\_0623\\_peacein\\_okinawa.html](http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/monthly_new_2008_0623_peacein_okinawa.html)

## 第38回地方委員会を開催

秋に向けた取り組みを確認

連合北海道は、6月30日、第38回地方委員会を開催し、「2008春季生活闘争の中間まとめ」、「第45回衆議院選挙への対応方針 - その2 -」等について審議し、満場一致で確認された。また、産別大会により欠員が生じることに

なった役員の一部改選も行われ、4名の新役員も確認された。

開会の冒頭、高柳連合北海道会長は、増大する非正規労働者の問題を「今の雇用問題であるとともに、年金等

の将来の問題でもある」として、非正規労働者問題の解決の重要性を訴えた。



さらに道が進めようとしている支庁制度改革について言及し、「理念・計画が具体的に示されていないし、手続きや住民等に対する説明も不十分である」として、「道庁の、道庁のための支庁改革」であり、道が提起している振興局は「名ばかり振興局」であると批判した。

挨拶の最後には政局についてふれ院内外の取り組みを強めて国民運動を盛り上げ、衆議院を解散に追い込むことも視野にいれた秋季闘争を構築するとした。

また来賓の鉢呂吉雄民主党北海道代表も「今後も連合北海道と連携し、道民運動を盛り上げ、解散・総選挙へと追い込み」、「全選挙区で勝つ」と挨拶をした。

この後議案の審議に入り全議案とも執行部提案通り承認され、会場からの発言では、空知地協より「木の城たいせつ」関連での一連の行動に対するお礼と現状報告、そしてこの行動を通して非正規労働センターの取り組みの重要性を実感したことが報告された。

最後に高柳会長の団結ガンバローで地方委員会を終了した。尚、今次地方委員会で退任・就任した役員は以下のとおり。

<b>新役員</b>		
会長代行	松本 容司	(JP労組)
副会長	井田 邦佳	(電力総連)
副会長	住友 肇	(北教組)
会計監査	高田 誠	(交通労連)
<b>退任役員</b>		
会長代行	中山 和則	(北教組)
副会長	藤井 和則	(電力総連)
会計監査	古川 吉雄	(交通労連)

この記事のアドレス [http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/monthly\\_new\\_2008\\_0630\\_38chihouinkai.html](http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/monthly_new_2008_0630_38chihouinkai.html)

## 「男女平等月間」に講座と集会を開催 「男性のための男女平等講座」「男女雇用機会均等法集会」

男女雇用機会均等法が85年6月1日に公布されたことから、連合は6月を「男女平等月間」と定め、連合北海道は6月14日に北海道自治労会館において「男性のための男女平等講座」と「男女雇用機会均等法集会」を開催した。

### 「男性のための男女平等講座」



午前10時から開催された「男性のための男女平等講座」は、産別・地域から労組役員50名が参加し、北海道武蔵女子短期大学平岡祥孝教授より「性差から個人差への時代」と題した講演を受けた。

平岡教授は、女子学生の就職指導を長年担当し、就職動向や職業意識、さらに企業の採用実態に詳しく、就職問題あるいは、男女平等参画などをテーマにした講演を数多く行っている立場から「(良い悪いではなく)現実に『競争』のルールが変わった。また、肩書き社会・前例踏襲社会・嫉妬社会・情実社会と言える男性優位・年功型組織が崩壊した。自分で仕事が創れる人、組織に利益をもたらす人が優秀な人材とされ、優秀な人材の定着を求める企業(組織)は、男・女の性差を問うていない。また、仕事の評価は他人がするもの。組織の管理職・役員は、自立した個人を大切にする・働く人を大

切にする・若手や女性にとって働きやすい環境を作るなど、個人の実力を限りなく正当に評価する努力を惜しまないものでなければならない」と述べ、「組織の管理職・役員が、旧態依然のやり方、価値観で物事を進めていると、過去の勝者が現在の敗者になる危険性がある。それは(私が知る)会社・企業だけではなく、労組にも言えるのかもしれませんが」との趣旨の講演をした。

### 「男女雇用機会均等法集会」

午後1時からは組合員約200名が参加し「男女雇用機会均等法集会」が開催され、小林ちよみ前衆議院議員が「私たちがめざすワーク・ライフ・バランス」との題で講演した。

小林さんは、男女雇用機会均等法の成立の歴史と背景について述べた後、会場に「今、社会、自分の生活等々に求めるものを教えて下さい」と問い、「保育の充実・労働時間短縮・非常勤のため待遇改善を・職場の増員・賃上げ(残業代が生活給)・若年層の就労支援・高齢者



が安心して暮らせる社会」等々の会場からの発言を踏まえ、「ワーク・ライフ・バランス(以下、WLB)とは90年代にアメリカで企業戦略として発祥した。日本では『仕事



と生活の調和』と訳され、政府・経済界・労働界・地方代表者・有識者から構成される『WLB推進官民トップ会議』を開催しているが、このトップ会議において昨年末に策定された『WLB実現のための憲章及び行動指針』を見ると、政府、そして経済界の思惑が見えてくる。政府の思惑は少子化対策が主眼と思われる。経済界にいたってはホワイトカラーエグゼンプション導入など労務コストを削減することが目的であるかのようだ。しかし、今、会場からの発言にあったように、『ワークとライフは別のものではない。『ワークはライフの一部』と捉えるのがWLBの広義的な考え方。そして、もちろん女性だけの問題ではない。すべての人たちが対象となるものであり、なおかつ、求めるものが人それぞれで異なる』と述べ、続いて「政策としてのWLBは必要。しかし、それは例えば女性労働者の仕事と育児・介護の両立のみにとどまるようなものではない。ましてや政府や経済界の思惑ではなく、男性か女性か、家族的責任を有し

ているか否か、正規か非正規かを問わず、すべての労働者にとっての仕事と生活のバランスの回復であり、だれもが安心して働き続けることが可能な社会、だれもが仕事と生活の調和が選択可能になる社会を実現すること。WLB推進官民トップ会議には、連合の高木会長も参加されている。労働者の立場から、実態の声を政治の場へ上げて行こう」と述べた。

男女雇用機会均等法や育児・介護休業法の改正等、制度面での男女平等は進んでいるが、非正規労働者の増加、賃金や昇進・昇格における格差、与えられる仕事の違い等による男女間格差は是正されず、実質的な男女平等はなかなか進んでいない。

労働組合の男女平等参画でさえ目標達成にはほど遠く、実効性ある取り組みが「待ったなし」の課題となっている。

連合第3次男女平等参画推進計画がめざす「仕事における男女平等参画」と「男女双方の仕事と生活の調和」の実現に向け、この6月の男女平等月間を起点とし、連合北海道としても自らの課題として取り組みを強化していく。

この記事のアドレス [http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/monthly\\_new\\_2008\\_0614\\_danjo\\_byodo-kinto.html](http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/monthly_new_2008_0614_danjo_byodo-kinto.html)

## 1日だけで1,000筆を超える署名 後期高齢者医療制度廃止など求め街頭行動

国会で民主党をはじめとする野党が提出をした後期高齢者医療制度の廃止法案が審議されている中、連合北海道と石狩地協、札幌地区連合は6月3日、札幌市大通り公園で後期高齢者医療制度廃止と安心と信頼の地域医療を求めて街頭宣伝と署名行動を退職者連合、民主党北海道と共に行った。

街頭宣伝では、産別組合員や退職者連合の皆さん70名がチラシ配布や街頭署名を行う中、荒井聰前衆議、小林千代美元衆議、篠田札幌市議がそれぞれマイクを握り、「おい先、死に追いやる、こんな制度は廃止しなければならない」、「怒るだけでなく行動しよう」、「社会保障費、医療費の削減が医療制度を崩壊させている」と、それぞれ訴え、「後期高齢者医療制度を本当に廃止させるために、安心と信頼の医療制度にするために総選挙で民主党に力を貸してほしい」と呼びかけた。

この呼びかけに応えるように多くの皆さんがチラシを受け取り、用意した5000枚はあっという間になくなった。また、街頭署名もこの日だけで1,000筆を超え、昨年の12月にも後期高齢者医



療制度の見直しを求めて街頭で署名行動を2日間実施したが、その時の署名数を1日で上回った。さらに、この日は、高齢者だけでなく学生や若い方々も数多く署名され、全世代にわたって関心が高いことを伺わせた。

連合北海道では後期高齢者医療制度や地域医療の問題に関して、連合が全国一斉に取り組んでいる「STOP!THE格差社会キャンペーン」の一環として位置付け、国や道がすすめるようとしている医療政策や地域医療をめぐる状況についても広く道民に周知し、地域住民が必要とする地域医療のあり方を地域住民と共に考え、住民本位の安心と信頼の地域医療を求めて6月から7月にかけて全道各地で街頭宣伝や80万枚のチラシ配布、組織内外の署名活動に取り組むこととしている。

この記事のアドレス [http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/monthly\\_new\\_2008\\_0603\\_medical\\_street-action.html](http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/monthly_new_2008_0603_medical_street-action.html)



# 当別町で災害時訓練を実施

## 08年度ボランティア講座

連合北海道ボランティアサポートセンターは、6月14日(土)に、当別町の北海道総合防災センターで、「災害時を想定した実技研修と講座」を行い、レスキューキッチン(非常用炊き出し器材)を使っ



ての大量調理実習と災害時の心構えなどの講座を行った。

当日は、午前10時半から災害救援ネットワーク北海道代表の山口幸雄さんの指導で、実技訓練として災害時を想定した大量炊き出しの訓練を行い、カレーライスの調理とおにぎりをつくった。炊事に使ったレスキューキッチンは、短時間に大量(最低50食～最大100食程度)の調理ができる炊事器具で炊飯から食材の煮炊きまでこなせる災害時の炊き出し用器材で、避難所での食事提供には欠かせない器材として活用されているもの。

受講者はこのレスキューキッチンを使ったメニューとして、カレーライス作りにチャレンジし、食材の調理から炊飯と手際よく分担して、おおよそ1時間程度で50食分のカレールーと白飯を炊き上げた。

その後には試食もかねて昼食時に自分たちの調理したカレーライスを食べたが、山口代表からは「味も見事ですが、作業の分担も十分コミュニケーションが取れていて、日常的にこのメンバーの交流があるような手際のよさだった」との感想をもらい、おいしさもよりいっそうのカレーライスとなった。

午後からは、講座として「札幌市の水害対策」のビデオやボランティア活動の際の注意点、実際の活動の体験談などの講義を受けた。

当日の参加者は26人でしたが、昨年の講座修了者2人と一昨年の講座修了者1人も参加し、今年度の受講者は有意義な一日を過ごすことができた。

この記事のアドレス [http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/monthly\\_new\\_2008\\_0614\\_volunteer\\_tobetsu.html](http://www.rengo-hokkaido.gr.jp/monthly/monthly_new_2008_0614_volunteer_tobetsu.html)



## 7月の主な動き

### 企画会議

7日(月) 10:00 / 連合北海道会議室

### 第2回最賃対策委員会

7日(月) 13:30 / 連合北海道会議室

### 組織財政特別委員会第1回小委員会

7日(月) 15:00 / 連合北海道会議室

### 全道勤労者総合文化祭

9日(水) / 札幌市民ギャラリー

### 最賃シンポジウム

11日(金) 13:00 / 東京

### 地域医療対策委員会・学習会

11日(金) 13:30 / ガーデンパレス

### 第10回中央執行委員会

17日(木) 13:30

### 2009年度政府予算に係わる中央要請行動

23日(水)

### 黒竜江省定期交流

23日(水)～27日(日)

### 常駐者会議

29日(火) 10:00 / 連合北海道会議室

## イベントカレンダー

### 第10回執行委員会

30日(水) 10:30 / 連合北海道会議室

### 第26回政治センター幹事会

30日(水) 16:30 / ロイトン札幌

### 組織財政特別委員会第2回小委員会

31日(木) 10:00 / ガトーキングダム



毎回大好評の組員特別優待クーポン誌

## ゆに・ぽん

夏休み版 好評配布中!

道内のアミューズメントやホテル、ロッジなどが特別価格で利用できます。

これからの旅行シーズンにぜひお役立てください。

